

知っていただきたい現象

商品の特性に関連して発生する現象について

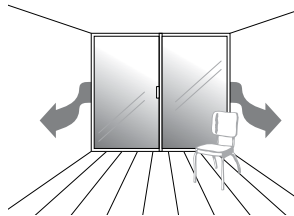
「すき間風がある」「笛を吹いたような音がする」など、日常生活の中で「何かおかしいな…」と感じる現象が発生することがあります。これらのうち、窓やドアの不具合ではなく、商品の特性に関連して発生する場合があります。ここでは発生する可能性のある現象について、商品の特性を踏まえて説明しています。

窓を閉めきった時のすき間風

窓を閉めきった時のすき間をふさぐために、枠や窓にはパッキンなどの気密部品を取付けています。強風や季節風などによって室内外に気圧差が生じると、この気密部品の接触部分から、すき間風が発生します。これは自然現象のひとつであり完全になくすことはできません。

また、換気扇を使用した場合は、強制的に空気を室外に排出するため、気密材と枠または窓の接触部分から空気が入ることがあります。

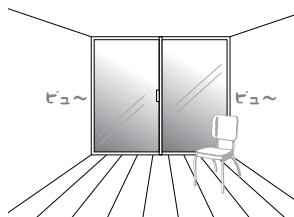
ただし、すき間風があまりに激しい場合は、窓各部の調整が不十分であることが考えられますので、調整をお願いします。



窓の笛鳴り現象

窓を閉めきった状態で換気扇を使用した場合、強制的に空気が室外に排出されるとともに、同じ量の空気が窓のすき間などから室内に入り込もうとします。気密部品と枠または窓の接触部分を通り抜ける空気が、笛を吹く状態と同じ現象を起こします。これを「笛鳴り現象」といいます。これは自然現象のひとつであり完全になくすことはできません。また、強風時や高層マンションのように常時風が吹き抜ける所においても笛鳴り現象が起こることがあります。

ただし、「笛鳴り現象」は、窓各部の調整が不十分である時にも生じますので、調整をお願いいたします。

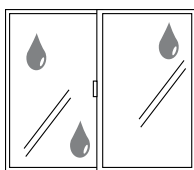


結露

結露は、室内外の温度差が大きく室内の湿度が高い場合、季節を問わず発生します。これは自然現象のひとつであり、窓の不具合ではありません。また、室内の環境状況によっては、断熱窓を使用している場合でも結露が発生する場合があります。

結露が発生した場合は、乾いた布ですみやかに拭き取ってください。

結露を完全になくすことはできませんが、できるだけ発生を抑える方法として下記の点を心がけてください。

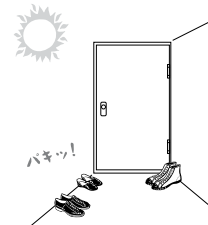


- 過度な加湿の防止(上限60%)
- 換気の促進
- 室温を適温に保つ
- 空気の流れをよくする

『脱・結露のススメ』というパンフレットをご用意しています。ご希望の方は当社お客様相談室までご連絡ください。
(☎0120-20-4134)

玄関ドアなどの音鳴り現象

玄関ドア・引戸は表面積が大きいので、太陽光を直接受ける室外側と、受けない室内側で温度差が生じやすくなります。この温度差に伴い室内外面にわずかなゆがみと、たて横・大小の構成部材間で異なる熱膨張とが重なって摩擦が生じ、「パキパキ」「ギシギシ」などの異音が発生することがあります。



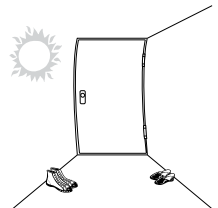
このような音鳴り現象は、気温・立地条件・季節・使用材料の特性などの違いにより起こる不可抗力現象で、玄関ドア・引戸の不具合によるものではありません。

音は、日が高くなって外気温が上がったり、日がかげると自然に止みます。

断熱ドア・引戸の熱反り

断熱ドア・引戸は室内外の温度を伝えにくい構造になっているため、日差しや室内外の温度差により、ドア・引戸本体室外側の面と、室内側の面で伸びる量に差が生じます。これにより、反りが発生する場合があります。立地条件、ひさしの形状により反り量は一定ではありません。

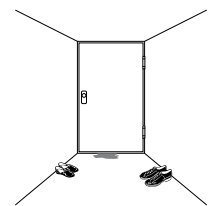
一時的な現象であり、ドア本体の室外側と室内側の表面温度差が小さくなると元に戻ります。



玄関ドアなどからの雨水浸入

強風雨時など、ドア・引戸から雨水が浸入することがありますが、商品の不良ではありません。

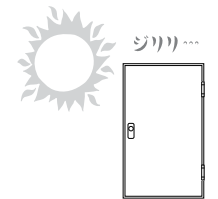
玄関は、ポーチ屋根により通常の風雨は防げますが、濡れたり、汚れた靴で入ることを想定して土間仕上げとなります。居室に使用される窓と同等の水密性能は、玄関には施されていません。また、ドア・引戸の施錠機構は、窓に採用されているような枠と窓を密着させて雨水浸入を防止する引き寄せ構造にはなっていないのが一般的です。



玄関ドア・引戸の表面温度

商品をご使用中、ドア全体が熱くなることがありますが、これは玄関ドア本体に長時間直射日光が当たることによる表面温度の上昇です。ドアの表面やハンドル等で、特にブラック・ブラウンなど色の濃い商品ほど表面温度が上昇します。

直射日光が強い時間帯はやけどをするおそれがありますので、開閉の際にはご注意ください。



扉表面の白亜化現象(チョーキング)

玄関ドア・玄関引戸などの扉表面材はカラー鋼板(表面に樹脂塗料を塗布し、意匠性を高めた鋼板)を使用しているものがあります。これらの商品は、ご使用いただいている間に紫外線・風・熱・雨など様々な環境要因によって少しずつ色や艶が落ちて、建物の外観に即した落ち着いた風合いになっていきます。

さらに長い期間が経過すると、樹脂塗料の塗膜が劣化して白っぽいチョークの粉をふいたような状態になることがあります。これは「白亜化現象(チョーキング)」と呼ばれる、カラー鋼板の特性による経年劣化です。

経年劣化による白亜化現象(チョーキング)の進行を遅らせるポイント:

- ドアの表面に付着した汚れを早めにお手入れする。